

トヨコ通信

ホームページ <http://www.sasada-toyoko.jp/>
mail sanbal@sasada-toyoko.jp

施設見学の中で三つの施設について報告します

5月1日より議員として仕事をしています。この2週間は主に議員研修で、5月14日には大垣市の施設見学(その1)が行われました。見学コースは次の通りです。

8:40大垣市役所出発 9:00お勝山ふれあいセンター 9:45スイトピアセンター
10:30保健センター 11:00くすのき苑 12:00南部学校給食センター(昼食)
13:30市民病院 14:30柿の木荘 15:10クリーンセンター・資源対策課
16:00総合福祉会館 16:40帰庁

大垣市くすのき苑

昭和62年完成の特別養護老人ホーム。ここでは様々な問題が見えてきた。設立当初50床でスタート、途中で50床増床したが、食堂や浴室は当初のままであるため、食事介助や入浴介助では、職員の負担が大きい。部屋のつくりは病室のようでベッドが4つ、男女混合の部屋もある。ベッドを効率よく使うためには仕方がないとのこと。それでもまだ450人の待機者がいる。職員の数も少なく、2階のフロアでは28人の入所者に対して朝夕の時間帯は職員2人しかいない。また夜勤は看護師がならず、利用者が急変することも度々で職員の負担は大きい。若い職員でも腰痛症になる人が多い。

ただ、利用者負担は民間より安く、家族の面会なども多く、地域に開かれている感じがした。

この4月より介護保険の点数が変更となり、平成15年度は1,900万円から2,000万円の減収が見込まれる。



南部学校給食センター

大垣市の学校給食はセンター方式で、南部給食センターで12000食、北部給食センターで3000食作っている。南部給食センターの建て替えは以前から計画されていたが、0-157問題と阪神大震災が起きて、給食センター1箇所では非常時に対応できないと、建設がのびのびになってきた。私は、「自校方式」と「センター方式」のメリット・デメリットについて質問したが、結局はセンター方式のメリットはコストの問題だけと思えた。

作る人・食べる人の交流など食を通しての教育、作ってすぐ食べることができ、食中毒の心配はないし、なにしろおいしいといった学校給食の本質の部分では自校方式が一番と考える。

ただ、センター方式で長年行っている大垣市の学校給食を自校方式に切り替えるのは至難の業である。南部給食センターの建て替えがせまっております。みんなの声を挙げていくことが大切である。

「大垣の学校給食がまずい」と聞いていたが、試食した限りではあまり感じなかった。

ただ、味だけでなく、食を通しての教育のあり方としてはいろいろ問題がありそう。

大垣市民病院

病院長の話では、医療技術においても病院経営においても全国で10指の中に入る、県下最大の病院。平均在院日数は「18.9日」。私は「入院日数20日をきることを目標にしているのですか?」と尋ねると、厚生省の指導は「17日」以内にするので、目標はまだ達成されていないとのこと。

今までも市民病院に入院されている方が退院や転院をせまられていて困ったという話を聞いたが、本当だったと実感。病院の正面には理念として「患者中心の医療」と謳われていたが、なんだか白々しい。

